

実践記録

109

シリーズ

まちづくり講座「とやのの“話・和・輪”」活動報告

新潟市鳥屋野地区公民館 主任 大塚 文秋

1 公民館で行う「まちづくり講座」

平成16年度から始めた講座ですが、毎年4月の新規会員も交えた花見兼ウェルカムパーティーで活動がスタートします。

鳥屋野地域はマンションが多く、通勤族の多いまちといわれています。従ってどちらかといえば、地域の連帯感が薄い地域と考えられてきましたので、活動の目的を「地域の絆づくり」におくことで意思統一しました。

まずは地域探訪と古老のお話をきくことで地域を知ることから始め、次に活動のテーマ決めです。最初は、我々でできる小さいことから取り組もうとの方針でしたが、鳥屋野潟周辺に桜の木を植えようというA班、地域の文化遺産（お宝）を探し保存するとともに、もっと地域に広めていこうというB班、2つのテーマに分かれました。しかし、鳥屋野潟の土地所有権問題や、文化遺産もすでに多くのパンフレットなどで紹介されていることなどからテーマを見直した結果、A班：該当地域の自治会の人たちと共に農業排水路周辺の花壇造り、B班：避難道路も記載した防災マップづくりに落ち着きました。

ハードな面よりは、あまりお金のかからないソフトな面でまちづくりを考えようとしたので、ようやく実現できそうな身の丈サイズのテーマとなったのではないかと感じています。



2 「まちづくり」から「まちそだち」へ

今年度の活動は毎月第4水曜日の午後を定例会として、専任講師とともにA班6名、B班9名、計15名で学習しています。

A班では、10月初旬に、排水路周辺の自治会の人たちとは別に、講座生だけで草取りから始まって苗木を移植したり球根を植えたり、通称「近江花街道」の名に恥じないように心をこめて畑作業を行いました。また、B班の方は9月から10月にかけて、2500分の一の当該地域の国土基本図9枚を繋ぎ合わせて一枚ものとし、標高差を色分けした後、避難場所とそこへの道路を明示しました。完成の暁には、その

縮尺版を各世帯に配布したいとの意気込みでやっています。

すでに出来上がっているまちなので、「まちづくり」というよりはむしろ、地域の中の人たちが自らの活動を通して自分たちのまちを育てていくことから、まちそのものが自立しながら成長していく「まちそだち」の視点を大切にして取り組んでいます。

3 中間報告会で地域発信

今年度の11月に、これまでの活動を地域に発信しようと中間報告会を行いました。まだ途中段階での地域発信ですが、自治会関係者を中心に約30名の参加者のほとんどの人が、このような活動を知らなかったとのこと。我々のPR不足を反省するとともに、これを機会に今後の活動に協力してもらえとのことなので、それなりの効果があったのではないかと自画自賛しています。

発表会では両班長が15分程度説明した後、新潟大学の熊孝教授が「水と暮らし」をテーマに記念講演を行いました。詳細は省きますが、橋一本かけるにしても政治家に頼ったのではそれが当たり前のような感覚となり有難味を感じない。そうではなく、住民同士や行政側と時間をかけて話し合い、作り上げた物語の存在が大切。即ち「まちづくりには先代の誰々をはじめとした人たちが苦勞して造ってくれた橋なんだよと後世に語り継げる“物語”が必要」との話は、とても大切な意味合いを感じました。

4 まとめ

このまちづくり講座は、地域学の一環として平成17年から19年の3ヵ年継続事業として計画されたものですが、来年が最終年度となります。花壇づくり班も防災避難マップ作成班も中間報告会以降は、地域の人たちとともにやっていく手ごたえを感じたせいか、新たな気持ちで取り組んでいますので、その出来映えが楽しみです。

それぞれが、それなりのまちづくりの物語となることを期待しながら、支援していきたいと思っています。

